



新社会党東京都本部委員長

江原ひであきアピール 2006.1

江原ひであき事務所

中野区南台 2-32-1 電話 (03) 3381-7656 FAX (03) 3383-8535

ホームページ <http://www7.ebara.or.jp/ebara-hideaki/>

Eメール hide-eba@cameo.plala.or.jp

迎春

最悪の政治状況'05年、観測以来といわれた12月の豪雪と猛寒波から早く春を迎えたいとの希望も込めて「迎春」と書きました。

新年を迎えて今年の日標を掲げたい。

基本は「人間のたための政治、経済をめざした闘い！」とする。

闘いの柱は、

第1に 区長選(6月)に勝利する。

第2は 新社会党結党10周年を迎えての記念パーティと「第11回全国大会」を成功さす。

第3は 九条の会・中野の3・10大集会を成功さす。

第4は 小泉の再選を許さず政治の流れを変える。「自、民に政策対峙する政治勢力結集」

昨年は憲法改悪阻止、自衛隊撤退、小泉政権打倒を掲げて活動をしてきたが、自衛隊も小泉政権も継続させてしまった。憲法については、自民党が「新憲法草案」なるものを明らかにしたが、我々も「平和憲法とともに歩む中野の会」や「九条の会・中野」を立ち上げるなどして、現憲法を生かし、広める地元での運動を展開してきた。

それにしても昨年ほど、政治と日本社会の風潮が大きく変わった年はなかったろう。衆議院選挙を境にして、日本のあらゆる社会構造の中に「弱肉強食」は当たり前の流れができてしまった。強い者、大きいものが法秩序さえ無視し、弱者や小を食い物にしながらその存在すら否定してはばからない。

今や、日本社会はあらゆる構造が総破壊されつつある。喜んでいるのは金融資本と新自由主義をおおがする超大企業と悪徳企業、さらにそれらの代弁者、竹中大臣と小泉首相たちだ。

“政治や経済が資本のためにある”人間がそのための道具になっている。最近の社会現象を見ていると数千年の歴史と文化を創ってきた人間社会としての日本で何なんだと思わざるを得ない。これでいいはずがない。そんな想いから次のような「年賀状」を書きました。

東京新聞が「大晦日に考える」として「何が一番大事なのか」を書いている。私の思いそのままなので一部を紹介して元旦のアピールにしたい。

迎春

2006年を迎えました。今年は「人間復権」の年にしたい！です、ネ！

昨年は新自由主義が日本を席卷しました。金、金、金…弱肉強食、無法、詐欺、いじめ、非論理、子殺し、親殺し、自殺…育児も教育も福祉も改革の名による民営化。日本列島総破壊！すべてが大資本の利益追求に。

そして、「子」に「人を信じるな」と教え、「親」に「他人を監視しろ」という。

そのうえ、総理大臣が教育基本法を変え、憲法を変え、「戦争をする国にする」という。

“そんな年”にしたくない。 2006年 元旦

“人間が、そこまでするか、と怒りのたぎる事件が相次ぎました。”との書き出しで、まさに悪魔の残虐行為を恐怖し、「文明はそんな人間たちをそだてて、さらにまたどこまで人間性を奪っていかうこののでしょうか。科学の発達につれる人間性の喪失 古い命題の正しさを痛感させられます。

大切なのは何か。一番大事なことは何なのか。それがわからなくなった人、考えようもしない人が増えたように思えてなりません。

最も尊重されるべきは人の命でしょう。弱き者を守ることでしょう。なのに、効率、ダイヤ優先で乗客を忘れた為にあの福知山線の大事故です。

経済効率を上げ、もうけるために、倒れても構わぬマンション、ホテルを建てて売る。…組織的、業界の構造的犯罪さえ疑われるとあれば、競争社会、市場主義、資本主義の非人間性にまで思い及ばざるを得ません。…小泉首相の靖国参拝や改憲指向にも、どこまで考え抜いての結論か。なだれ過ぎではないか…」と指摘している。

みなさん！今年を「政治、経済を資本という魔物から人間の手に取り戻す」元年にしようではありませんか。大同団結して闘いましょう！

2006年 元旦
新社会党 江原ひであき